

シンポジウム 「中欧美術の現在」

2016年6月11日(土)
15:00-18:00

会場 上智大学2号館508教室
使用言語 日本語
入場無料
事前申し込み不要

〔報告者〕

加須屋明子(京都市立芸術大学教授)

「昼の家、夜の家」

—P.アルトハメルとA.ジミエフスキの活動を中心に—

井口壽乃(埼玉大学教授)

実験的アート・アーカイヴ「ARTPOOL」

—ガラランタイ・ジェルジとクラニツァイ・ユーリアの活動—

宮崎淳史(チェコ美術研究家)

『WHERE THE PLACE-UPON THE HEATH』

イヴァン・ピンカヴァの写真とヨゼフ・ボルフの絵画について

〔コメンテータ〕

香川檀(武蔵大学教授)

〔閉会の挨拶〕

沼野充義(日本スラヴ学研究会会長、東京大学教授)

1989年の東欧革命以後、急速に進む政治経済状況の変化に伴って、中欧諸国の芸術文化においても大きな変容がもたらされている。本シンポジウムでは、大国に挟まれ歴史に翻弄されながらも、それぞれの地域での文化芸術の多様性を育み続けてきた、ポーランド、チェコ、ハンガリーなど中欧諸国の現代美術に注目し、その多様な状況について検証すると同時に、これからの芸術文化の可能性についても合わせて考えてみたい。

主催：
日本スラヴ学研究会
上智大学ヨーロッパ研究所

お問合せ先：上智大学ヨーロッパ研究所

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学中央図書館7階 721 B
Tel: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sophia.ac.jp